

施策評価シート

施策等名称	『の』 望ましい食生活で健康長寿を目指します	体系番号	0101010802
		主管課	健康づくり推進課

1 施策基本情報

現状と課題	朝食欠食や、野菜不足など、若い世代をはじめとした食習慣の乱れが依然課題になっています。生活習慣が乱れがちな20代、30代の食育に重点を置きながら、全ての人が、生活習慣病の予防と重症化予防に取り組むことが求められています。また、高齢期の低栄養を原因とする骨粗鬆症、虚弱の問題にも取り組んでいく必要があります。
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	「主食・主菜・副菜」のそろった食事や、適塩を心がけ、市民一人ひとりが自分の健康状態に合った食生活を実践し、健康寿命の延伸を目指します。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	
				2027年度目標値	区分
①	朝食を食べる人の割合(5歳児)	朝食を食べる人の5歳児の割合(%)	94.00	97.00	100%
②	朝食を食べる人の割合(小学5年生)	朝食を食べる人の小学5年生の割合(%)	92.00	93.00	100%
③	朝食を食べる人の割合(中学2年生)	朝食を食べる人の中学2年生の割合(%)	89.00	95.00	100%
④	朝食を食べる人の割合(20~30歳代)	朝食を食べる人の20~30歳代の割合(%)	データなし	87.00	85%以上
⑤	朝食を食べる人の割合(40~70歳代)	朝食を食べる人の40~70歳代の割合(%)	データなし	90.00	90%以上
⑥	生活習慣病の予防のために望ましい食生活を実践している人の割合	生活習慣病の予防の為にふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合(%)	データなし	72.00	75%以上

施策の柱1	名称	個々に合ったバランスの良い食事にする	主管課	健康づくり推進課		
	詳細	年齢、体格など一人ひとりの状態にあったバランスの良い食事を整えることができるよう支援します。				
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業
	1	離乳食教室参加者数	離乳食教室参加者数(人)	180.00	200.00	1 食育事業
					270.00	2
	2	朝食で「主食・主菜・副菜」のそろっている人の割合(20~70歳代)	保健指導員アンケートで、「朝食で主食・主菜・副菜のそろっている人の割合(%)」(20~70歳代)	56.00	58.00	3
3				60%以上	4	
					5	
					6	
基本政策間連携						

施策の体系	名称	生活習慣病予防のための食生活を実践する	主管課	健康づくり推進課		
		詳細	生活習慣病予防のため、よくかむことや、適塩、野菜たっぷり、和食の取り入れをすすめ、市民一人ひとりが自分の健康状態にあった食生活を実践することで、健康寿命の延伸を目指します。			
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業
	1	地区料理講習会参加者数	食生活推進員が開催する地区料理講習会の参加者数(人)	690.00	710.00	1 食生活改善推進事業
					720.00	2
	2	食生活改善推進員養成講座参加者のべ数	食生活改善推進員養成講座参加者のべ数(人)	76.00	90.00	3
				120.00	4	
3	栄養関係講座受講者数	栄養関係講座受講者数(地区公民館、高齢者クラブ、保健指導員会、お達者教室等)(人)	380.00	450.00	5	
				600.00	6	
基本政策間連携						

施策の柱3	名称		主管課			
	詳細					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業
	1					1
						2
	2					3
					4	
3					5	
					6	
基本政策間連携						

施策等名称	『の』 望ましい食生活で健康長寿を目指します	体系番号	0101010802
		主管課	健康づくり推進課

## 2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
<b>施策</b>	朝食を食べる人の割合(5歳児)	94.00	96.00	94.00	95.00	96.00	
1		97.00	98.97	96.91	97.94	98.97	0.00
変動要因等	2018年度	朝食を食べる5歳児の割合は、横ばいだった。乳幼児健診や保育園、幼児教育課で繰り返し朝食の大切さを訴えている。					
	2019年度	朝食を食べる5歳児の割合は、横ばいだった。乳幼児健診や保育園、幼児教育課で繰り返し朝食の大切さを訴えている。					
	2020年度	朝食を食べる5歳児の割合は、横ばいだった。乳幼児健診や保育園、幼児教育課で繰り返し朝食の大切さを訴えている。					
	2021年度	朝食を食べる5歳児の割合は、横ばいだった。乳幼児健診や保育園、幼児教育課で繰り返し朝食の大切さを訴えている。					
	2022年度						
<b>施策</b>	朝食を食べる人の割合(小学5年生)	89.00	92.00	90.00	89.00	88.00	
2		93.00	98.92	96.77	95.70	94.62	0.00
変動要因等	2018年度	朝食を食べる小学5年生の割合は横ばいだった。学校で、児童や保護者に朝食の大切さを伝えている。					
	2019年度	朝食を食べる小学5年生の割合は横ばいだった。学校で、児童や保護者に朝食の大切さを伝えている。					
	2020年度	朝食を食べる小学5年生の割合は横ばいだった。学校で、児童や保護者に朝食の大切さを伝えている。					
	2021年度	朝食を食べる小学5年生の割合は横ばいだった。学校で、児童や保護者に朝食の大切さを伝えている。					
	2022年度						
<b>施策</b>	朝食を食べる人の割合(中学2年生)	89.00	91.00	91.00	86.00	85.00	
3		95.00	95.79	95.79	90.53	89.47	0.00
変動要因等	2018年度	朝食を食べる中学生の割合は、やや増加した。学校で生徒や保護者に朝食の大切さを伝えている。					
	2019年度	朝食を食べる中学生の割合は、横ばいだった。学校で生徒や保護者に朝食の大切さを伝えている。					
	2020年度	朝食を食べる中学生の割合は、やや減少した。学校で生徒や保護者に朝食の大切さを伝えている。					
	2021年度	朝食を食べる中学生の割合は、横ばいだった。学校で生徒や保護者に朝食の大切さを伝えている。					
	2022年度						
<b>施策</b>	朝食を食べる人の割合(20~30歳代)	67.00	70.50	69.00	60.00	75.00	
4		87.00	81.03	79.31	68.97	86.21	0.00
変動要因等	2018年度	20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策定時85%から82%に減少した。年代別は、調査の母数が少ないため、正確に出せなかった					
	2019年度	20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増加傾向にあるが、調査の母数が少ないため、正確に出せなかった。					
	2020年度	20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、減少したが、調査の母数が少ないため、正確に出せなかった。					
	2021年度	20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増加傾向にあるが、調査の母数が少ないため、正確に出せなかった。					
	2022年度						
<b>施策</b>	朝食を食べる人の割合(40~70歳代)	84.00	87.00	91.00	94.00	84.00	
5		90.00	96.67	101.11	104.44	93.33	0.00
変動要因等	2018年度	40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増加傾向にあるが、調査の母数が少ないため、正確に出せなかった					
	2019年度	40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増加傾向にあるが、調査の母数が少ないため、正確に出せなかった					
	2020年度	40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増加傾向にあるが、調査の母数が少ないため、正確に出せなかった					
	2021年度	40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、減少したが、調査の母数が少ないため、正確に出せなかった					
	2022年度						
<b>施策</b>	生活習慣病の予防のために望ましい食生活を実践している人の割合	データなし	50.00	47.00	59.00	59.00	
6		72.00	69.44	65.28	81.94	81.94	0.00
変動要因等	2018年度	ふだんから適正体重の維持や減塩等に気を付けている人は、半数だった。来年度は増加しているよう呼びかけていく。					
	2019年度	生活習慣病の予防の為にふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合は、減少傾向にある。来年度は増加しているよう呼びかけていく。					
	2020年度	生活習慣病の予防の為にふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合は、増加した。来年度は増加しているよう呼びかけていく。					
	2021年度	生活習慣病の予防の為にふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合は、増加した。来年度は増加しているよう呼びかけていく。					
	2022年度						

施策等名称	『の』 望ましい食生活で健康長寿を目指します	体系番号	0101010802
		所管課	健康づくり推進課

No.	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
柱1 1	離乳食教室参加者数	180.00	256.00	169.00	109.00	122.00	
		200.00	128.00	84.50	54.50	61.00	0.00
変動要因等	2018年度	離乳食教室参加者数は、増加した。7～8か月児対象の教室を、年6回から12回に増やして実施したため。					
	2019年度	離乳食教室参加者数は、減少した。コロナウイルス感染防止の関係で3月の教室を中止した。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で4月、5月の離乳食教室を中止した。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で9月の離乳食教室を中止した。					
	2022年度						
柱1 2	朝食で「主食・主菜・副菜」のそろっている人の割合(20-70歳代)	56.00	38.00	40.00	43.00	54.00	
		58.00	65.52	68.97	74.14	93.10	0.00
変動要因等	2018年度	朝食で、主食、主菜、副菜がそろっている保健補導員の割合は減少した。					
	2019年度	朝食で、主食、主菜、副菜がそろっている保健補導員の割合は増加した。					
	2020年度	朝食で、主食、主菜、副菜がそろっている保健補導員の割合は増加した。					
	2021年度	朝食で、主食、主菜、副菜がそろっている保健補導員の割合は増加した。					
	2022年度						
柱2 1	地区料理講習会参加者数	700.00	711.00	577.00	0.00	0.00	
		710.00	100.14	81.27	0.00	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	地区料理講習会参加者数は、横ばいだった。開催回数は減少したが、公民館等と共催し、参加者が増加した地区があった。					
	2019年度	地区料理講習会参加者数は、減少した。保健補導員活動も減少していく中で、地区料理講習会の回数も減少している。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で地区料理講習会は開催できなかった。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で地区料理講習会は開催できなかった。					
	2022年度						
柱2 2	食生活改善推進員養成講座参加者のべ数	122.00	122.00	60.00	0.00	30.00	
		120.00	101.67	50.00	0.00	25.00	0.00
変動要因等	2018年度	食生活改善推進員養成講座受講者、の延べ人数は横ばいだった。					
	2019年度	食生活改善推進員養成講座受講者、の延べ人数は大幅に減少した。参加者数が減少したため。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で講座は開催できなかった。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で講座は縮小して開催した。					
	2022年度						
柱2 3	栄養関係講座受講者数	380.00	636.00	656.00	147.00	108.00	
		600.00	106.00	109.33	24.50	18.00	0.00
変動要因等	2018年度	公民館や高齢者クラブでの栄養講話の受講者は減少した。高齢者クラブでの開催回数が減少している。体操の需要が多いためか。					
	2019年度	公民館や高齢者クラブでの栄養講話の受講者は減少した。高齢者クラブでの開催回数が減少している。体操の需要が多いためか。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で需要が少なかった。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で需要が少なかった。					
	2022年度						
			#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						

施策等名称	『の』 望ましい食生活で健康長寿を目指します	体系番号	0101010802
		主管課	健康づくり推進課

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年(前年度比)		2019年(前年度比)		2020年(前年度比)		2021年(前年度比)		2022年(前年度比)	
投資額	事業費(円)	982,570		893,285	0.91	314,396	0.35	573,104	1.82	1,925,000	3.36
	うち一財(円)	68,144		65,735	0.96	248,510	3.78	369,212	1.49	321,000	0.87
	増減理由 (一般財源前年度比±10%以上の場合に記載)					新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントや料理教室が開催できなかったため		予算の組替あり			
進捗評価		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調			
総合評価	主な取組内容や成果	離乳食教室や、食生活改善推進員の養成、地区での食育活動により、自分の健康状態を知り、バランスの良い食事をしようとする人を増やすよう取り組んだ結果、離乳食教室の参加者や、食生活に興味関心を持つ人が増加した。		生活習慣病の予防や、重症化予防のための、望ましい食生活の具体的な方法を栄養関係講座で伝えてることに取り組んだ。		新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講座を開催することができなかったが、ホームページやビーナネットで配信した。		新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講座を開催することができなかったが、ホームページやビーナネットで配信した。広報ちので食育特集「あなたの減塩応援します」を掲載した。			
	課題	地区料理の依頼回数や、地区での栄養講話の依頼や、講座の参加者は減少傾向にある。地域に、食の大切さの情報発信を行う方法を考える必要がある。		離乳食教室はネット情報が充実しているためか、参加者は減少している。地区料理講習会も補導員活動の減少とともに回数が減少している。		コロナの影響で、講座、地区料理講習会など開催できず、離乳食教室の参加者も減少した。食の大切さを情報発信する方法を考える必要がある。		コロナの影響で、講座、地区料理講習会など開催できず、離乳食教室の参加者も減少した。食の大切さを情報発信する方法を考える必要がある。			
改革・改善	改革・改善内容	ビーナネットや、ホームページを活用したり、食事ボランティアを通じて、生活習慣病の予防や、重症化予防のための、望ましい食生活の具体的な方法を伝えていく。		ビーナネットや、ホームページを活用したり、食事ボランティアを通じて、生活習慣病の予防や、重症化予防のための、望ましい食生活の具体的な方法を伝えていく。		ビーナネットや、ホームページを活用したり、食事ボランティアを通じて、生活習慣病の予防や、重症化予防のための、望ましい食生活の具体的な方法を伝えていく。		定期的にビーナネットや、ホームページ、広報等を活用する。食生活改善推進員等を通じて、地域の人に望ましい食生活の具体的な方法を伝えていく。また、コロナ禍でも感染対策をして、出来る範囲で講座、料理教室等を実施する。			
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	1	1	1	1	1	1	1	1	
		重点業務	2	2	2	2	2	2	2	2	
理由	望ましい食生活で、健康長寿を目指すための、実践しやすい方法を、ネットを活用した情報発信や、ボランティアからの正しい情報を得て、住民が食生活を改善することで、健康を維持し、生活習慣病を予防する。		望ましい食生活で、健康長寿を目指すための、実践しやすい方法を、ネットを活用した情報発信や、ボランティアからの正しい情報を得て、住民が食生活を改善することで、健康を維持し、生活習慣病を予防する。		望ましい食生活で、健康長寿を目指すための、実践しやすい方法を、ネットを活用した情報発信や、ボランティアからの正しい情報を得て、住民が食生活を改善することで、健康を維持し、生活習慣病を予防する。		主食・主菜・副菜のそろったバランスのよい食生活を住民の方に実践してもらうことが、健康長寿につながる。実践しやすい方法を、情報発信して、住民が食生活を改善することで、健康を維持し、生活習慣病を予防する。				

作成担当者	堀 美恵	神澤 活枝	神澤 活枝	神澤 活枝
最終評価責任者	両角 直樹	両角 直樹	依田 利文	依田 利文
最終評価年月日	2019年5月31日	2020年7月10日	2021年5月31日	2022年5月30日